安全データシート

1-デカノール

改訂日：2024-05-09 版番号：1

1. 化学品及び会社情報

製品識別子

製品名	: 1-デカノール
CB番号	: CB1224014
CAS	: 112-30-1
EINECS番号	: 203-956-9
同義語	: 1-デカノール,デカノール

物質または混合物の関連する特定された用途、および推奨されない用途

関連する特定用途	: 可塑剤原料，潤滑剤，界面活性剤，農薬（植物成長阻害剤）
推奨されない用途	: なし

会社ID

会社名	： Chemicalbook
住所	： 北京市海淀区上地十街匯煌国際1号棟
電話	： 010-86108875

2. 危険有害性の要約

GHS分類

分類実施日

H21.3.31、政府向けGHS分類ガイダンス(H20.9.5版)を使用

物理化学的危険性

支燃性・酸化性ガス類　分類対象外

高圧ガス　分類対象外

引火性液体　区分外

可燃性固体　分類対象外

自己反応性化学品　分類対象外

自然発火性液体　区分外

自然発火性固体　分類対象外

自己発熱性化学品　分類できない

水反応可燃性化学品　分類対象外

酸化性液体　分類対象外

酸化性固体　分類対象外

有機過酸化物　分類対象外

金属腐食性物質　分類できない

可燃性・引火性エアゾール　分類対象外

可燃性・引火性ガス　分類対象外

火薬類　分類対象外

健康に対する有害性

急性毒性(経口)　区分外

急性毒性(経皮)　区分外

急性毒性(吸入:ガス)　分類対象外

急性毒性(吸入:蒸気)　分類できない

急性毒性(吸入:粉じん)　分類対象外

急性毒性(吸入:ミスト)　区分4

皮膚腐食性・刺激性　分類できない

眼に対する重篤な損傷・眼刺激性　区分2

呼吸器感作性　分類できない

皮膚感作性　分類できない

生殖細胞変異原性　分類できない

発がん性　分類できない

生殖毒性　区分2

特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露)　区分3(気道刺激性)

特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露)　分類できない

吸引性呼吸器有害性　区分1

環境に対する有害性

水生環境急性有害性　区分1

水生環境慢性有害性　区分1

2.2 注意書きも含むGHSラベル要素

絵表示

GHS07

注意喚起語

警告

危険有害性情報

H319 強い眼刺激。

H401 水生生物に毒性。

H412 長期継続的影響によって水生生物に有害。

注意書き

安全対策

P264 取扱い後は皮膚をよく洗うこと。

P273 環境への放出を避けること。

P280 保護眼鏡 / 保護面を着用すること。

応急措置

P305 + P351 + P338 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。そ

の後も洗浄を続けること。

P337 + P313 眼の刺激が続く場合：医師の診察 / 手当てを受けること。

廃棄

P501 内容物 / 容器を承認された処理施設に廃棄すること。

2.3 他の危険有害性

なし

---

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	: 化学物質
化学特性(示性式、構造式 等）	: $C_{10}H_{22}O$
分子量	: 158.28 g/mol
CAS番号	: 112-30-1
EC番号	: 203-956-9
化審法官報公示番号	: 2-217
安衛法官報公示番号	: -

---

4. 応急措置

4.1 必要な応急手当

一般的アドバイス

この安全データシートを担当医に見せる。

吸入した場合

吸入後は新鮮な空気を吸うこと。

皮膚に付着した場合

皮膚に接触した場合: すべての汚染された衣類を直ちに脱ぐこと。 皮膚を流水/シャワーで洗うこと。

眼に入った場合

眼に触れた後は多量の水ですすぐこと。 眼科医の診察を受けること。 コンタクトレンズをはずす。

飲み込んだ場合

飲み込んだ後はただちに水を飲ませること(多くても2杯) 医師に相談する。

4.2 急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

もっとも重要な既知の徴候と症状は、ラベル表示(項目2.2を参照)および/または項目11に記載されている

4.3 緊急治療及び必要とされる特別処置の指示

データなし

---

5. 火災時の措置

5.1 消火剤

使ってはならない消火剤

本物質/混合物に対する消火剤の制限なし

適切な消火剤

二酸化炭素（CO2） 泡 粉末

5.2 特有の危険有害性

炭素酸化物

可燃性。

蒸気は空気より重く、床に沿って広がることがある。

高熱で空気と反応して爆発性混合物を生じる

火災時に有害な燃焼ガスや蒸気を生じるおそれあり。

5.3 消防士へのアドバイス

火災時には、自給式呼吸器を着用する。

5.4 詳細情報

消火水が、地上水または地下水のシステムを汚染しないようにする。

---

6. 漏出時の措置

6.1 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

救急隊員以外への助言: ほこりを吸い込まないこと。 触れないようにすること。 十分な換気を確保する。 危険なエリアから避難し、緊急時手順に従い、専門家に相談のこと個人保護については項目 8 を参照する。

6.2 環境に対する注意事項

物質が排水施設に流れ込まないようにする。

6.3 封じ込め及び浄化の方法及び機材

排水溝に蓋をすること。こぼれたら集めて結合させ、ポンプですくい取る。 物質の制限があれば順守のこと (セクション 7、10参照) 乾燥剤で処置すること。正しく廃棄すること。関係エリアを清掃のこと。ほこりを生じないようにすること。

6.4 参照すべき他の項目

廃棄はセクション13を参照。

---

7. 取扱い及び保管上の注意

7.1 安全な取扱いのための予防措置

注意事項は項目2.2を参照。

7.2 配合禁忌等を踏まえた保管条件

保管クラス

保管クラス (ドイツ) (TRGS 510): 11: 可燃性固体

保管条件

密閉のこと。 乾燥。保管安定性推奨された保管温度2 - 8 °C

7.3 特定の最終用途

項目1.2に記載されている用途以外には、その他の特定の用途が定められていない

---

8. ばく露防止及び保護措置

8.1 管理濃度

コンポーネント別作業環境測定パラメータ

許容濃度が設定されている物質を含有していない。

8.2 曝露防止

適切な技術的管理

汚した衣類は替えること。本物質を扱った後は手を洗うこと。

保護具

眼 / 顔面の保護

NIOSH（US）またはEN 166（EU）などの適切な政府機関の規格で試験され、認められた眼の保護具を使用する。 保護眼鏡

皮膚及び身体の保護具

本推奨は、当社発行の安全データシート,に記載されている製品およびその指定の使用法のみに適用される。溶解、他の物質との混合、およびEN374に記載の逸脱条件での使用については、CE認証手袋のサプライヤに問い合わせのこと(例. KCL GmbH, D-36124 Eichenzell, Internet: www.kcl.de)

フルコンタクト

材質: ニトリルゴム

最小厚: 0.4 mm

破過時間: 480 min

試験物質：Camatril? (KCL 730 / Aldrich Z677442, Size M)

本推奨は、当社発行の安全データシート,に記載されている製品およびその指定の使用法のみに適用される。溶解、他の物質との混合、およびEN374に記載の逸脱条件での使用については、CE認証手袋のサプライヤに問い合わせのこと(例. KCL GmbH, D-36124 Eichenzell, Internet: www.kcl.de)

飛沫への接触

材質: クロロプレン

最小厚: 0.65 mm

破過時間: 240 min

試験物質：KCL 720 Camapren®

身体の保護

保護衣

呼吸用保護具

気化ガス/エアロゾル発生時に必要 次の規格に準拠しているフィルター式呼吸器保護具を推奨します。DIN EN 143、DIN 14387および使用済み呼吸器保護システムに関連する他の付属規格。

環境暴露の制御

物質が排水施設に流れ込まないようにする。

9. 物理的及び化学的性質

Information on basic physicochemical properties

形状	液体
色	無色
臭い	特徴臭
pH	データなし

7℃ : ICSC (J) (2005)

230℃ : ICSC (J) (2005)

108℃ (C.C.) : ICSC (J) (2005)

255℃ : ICSC (J) (2005)

データなし

0.7~5.5vol% (空気中) : ICSC (J) (2005)

1Pa (20℃) : ICSC (J) (2005)

5.5 (空気=1) : ICSC (J) (2005)

データなし

0.83g/cm3 : ICSC (J) (2005)

水 : 0.37g/100ml (20℃) (非常に溶けにくい) : ICSC (J) (2005)

log p = 4.23 (計算値) : ICSC (J) (2005)

データなし

データなし

データなし

データなし

データなし

融点・凝固点

7℃ : ICSC (J) (2005)

沸点、初留点及び沸騰範囲

230℃ : ICSC (J) (2005)

引火点

108℃ (C.C.) : ICSC (J) (2005)

自然発火温度

255℃ : ICSC (J) (2005)

燃焼性(固体、ガス)

データなし

爆発範囲

0.7~5.5vol% (空気中) : ICSC (J) (2005)

蒸気圧

1Pa (20℃) : ICSC (J) (2005)

蒸気密度

5.5 (空気=1) : ICSC (J) (2005)

蒸発速度(酢酸ブチル=1)

データなし

比重(密度)

0.83g/cm3 : ICSC (J) (2005)

溶解度

水 : 0.37g/100ml (20℃) (非常に溶けにくい) : ICSC (J) (2005)

オクタノール・水分配係数

log p = 4.23 (計算値) : ICSC (J) (2005)

分解温度

データなし

粘度

データなし

粉じん爆発下限濃度

データなし

最小発火エネルギー

データなし

体積抵抗率(導電率)

データなし

---

10. 安定性及び反応性

10.1 反応性

高熱で空気と反応して爆発性混合物を生じる

引火点より下のおよそ15ケルビンからの範囲は危険とみなされている。

可燃性有機物質及び製剤に概ね該当：微細に分散し、舞い上がった場合、粉じん爆発を起こす可能性が

通常想定される。

10.2 化学的安定性

標準的な大気条件(室温)で化学的に安定。

10.3 危険有害反応可能性

次と激しく反応

強酸化剤

無水酢酸

酸塩化物

10.4 避けるべき条件

強力な熱

10.5 混触危険物質

脂質, ゴム, 人工/天然樹脂, 多様なプラスチック, 油

10.6 危険有害な分解生成物

火災の場合:項目5を参照

---

11. 有害性情報

急性毒性

経口

ラットを用いた経口投与試験のLD50値4,720 mg/kg(環境省リスク評価第6巻(2008))、12,800 mg/kg(IUCLID(2000))から、低い値4,720 mg/kgは国連GHS急性毒性区分5に該当するが、国内では不採用区分につき、区分外とした。

経皮

ウサギを用いた経皮投与試験のLD50値3,560 mg/kg(IUCLID(2000))は国連GHS急性毒性区分5に該当するが、国内では不採用区分につき、区分外とした。

吸入

吸入(ガス): GHS定義上の液体であるため、ガスでの吸入は想定されず、分類対象外とした。

吸入(蒸気): データがないので分類できない。

吸入(ミスト): 本物質の飽和蒸気圧濃度(20℃)は0.06 mg/Lである。マウスを用いた2時間吸入ばく露試験のLC50値4 mg/L(環境省リスク評価第6巻(2008)、IUCLID(2000))は、飽和蒸気圧濃度より大きい値であるためミスト基準を適用する。4時間換算LC50値は2 mg/Lなので、区分4とした。

皮膚腐食性・刺激性

動物については、ウサギを用いた24時間皮膚刺激性試験で、「irritating」(IUCLID(2000))との記述があるが、4時間より厳しい条件であるため使用できない。ヒトについては、皮膚刺激性試験で、「irritating」(IUCLID(2000))の記述があるが、3日間の連続投与試験であるため採用できない。以上より、データ不充分のため分類できない。

眼に対する重篤な損傷・刺激性

ウサギを用いた眼刺激性試験で、「角膜損傷を引き起こす」(Patty (5th, 2001))旨の記述がある。また、HSDB(2006)に、ウサギを用いた試験において「眼に対する損傷の程度は10段階中の2である(10が最も強い損傷)」旨、記述されている。以上から区分2とした。

呼吸器感作性又は皮膚感作性

呼吸器感作性:データがないので分類できない。

皮膚感作性:ヒトについては、Maximization試験で「not sensitizing」(IUCLID(2000))との記述があるが、List2の情報源であり、他にデータがないため分類できない。

生殖細胞変異原性

体細胞in vivo変異原性試験(ラット骨髄細胞を用いた変異原性試験)で「3.4%の細胞で異常が観察された」(IUCLID(2000))旨の記述があるが、結論は明記されておらず、一次文献(Tsitol. Genet. 22 (1988))を調査したが、判定についての記述はない。また、in vitro変異原性試験(ネズミチフス菌を用いた復帰突然変異試験)で「陰性」(IUCLID(2000))の記述があるので分類できない。

発がん性

主要な国際的評価機関による評価がなされていないため分類できない。 なお、「7,12 - ジメチルベンゾ[a]アントラセンをイニシエーターとした雌マウスの60週間経皮投与試験で、本物質のプロモーター活性はweakからmoderate」(Patty (5th, 2001))である旨の記述があり、このデータについてIUCLID(2000)は「皮膚がんが観察され、皮膚乳頭腫のプロモーターである」と評価している。

生殖毒性

妊娠1-19日の雌ラットに飽和蒸気を吸入ばく露した試験で、「母ラットの体重、吸収胚、胎仔の体重、性比、外表、骨格、内臓等への投与に関連した影響はみられなかった」(環境省リスク評価 第6巻(2008)、JECFA(2006)、Patty (5th, 2001)、IUCLID(2000)、HSDB(2006))旨の記述がある。一方、妊娠1-15日の雌ラットに40%溶液を経口投与した試験で、「胎児毒性が報告されている」(JECFA(2006)、Patty (5th, 2001))とあり、一次文献(Sov. J. Dev. Biol. 22 (1990))を調査したところ、「発育障害には水頭症、水腎症、骨化の抑制が含まれる」旨記述されているが、母動物に関する記述がなかったので、区分2とした。

特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露)

「経口摂取では腹痛、喉や胸部の灼熱感、吐き気、嘔吐、吸入すると咳、咽頭痛を生じる」(環境省リスク評価 第6巻(2008))及び「Respiratory Irritations」(HSDB (2006))との記述から、区分3(気道刺激性)とした。 なお、「高濃度の場合、中枢神経系に影響を与えることがある」(環境省リスク評価第6巻(2008))との記述があるが、ICSC1490(2005)からの引用で濃度が不明であるため、採用しない。

特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露)

ラットやウサギを用いた2ヶ月間吸入ばく露試験で、「200 mg/m3以上の群で血清のコリンエステラーゼ活性の低下、600 mg/m3 群で限局的な刺激症状がみられた」(環境省リスク評価第6巻(2008)、HSDB(2006))旨の記述があり、いずれも区分2のガイダンス値の範囲内であるが、データ不充分のため分類できない。

吸引性呼吸器有害性

「ラットに0.2 mLを誤嚥させたところ、9匹中9匹が死亡した」(Patty (5th, 2001))、「気管に入ると危険であり、少量(0.2 mL)では、炭化水素溶媒のような挙動を示す」(HSDB(2006))旨の記述がある。また、20℃での動粘性率を計算すると16.6 mm2/s(20℃)であり、40℃では20.5 mm2/s以下になると予想される。以上より区分1とした。

---

12. 環境影響情報

12.1 生態毒性

魚毒性

LC50 - Pimephales promelas (ファットヘッドミノウ) - > 1 - 10 mg/l - 96 h

(OECD 試験ガイドライン 203)

ミジンコ等の水生無脊

EC50 - Daphnia magna (オオミジンコ) - 3 mg/l - 48 h

椎動物に対する毒性

(DIN（ドイツ工業規格） 38412)

微生物毒性

EC0 - Pseudomonas putida (シュードモナス - プチダ) - 10,000 mg/l - 30 min

備考: (IUCLID)

12.2 残留性・分解性

生分解性

結果: 86 % - 易分解性。

(OECD 試験ガイドライン 301D)

12.3 生体蓄積性

データなし

12.4 土壌中の移動性

データなし

12.5 PBT および vPvB の評価結果

化学物質安全性評価が必要ではない/行っていないため、PBT/vPvB評価データはない。

12.6 内分泌かく乱性

データなし

12.7 他の有害影響

データなし

---

13. 廃棄上の注意

13.1 廃棄物処理方法

製品

内容物及び容器は、関連法規及び各自治体の条例等の規制に従い、産業廃棄物として適切に処理すること。

---

14. 輸送上の注意

14.1 国連番号

ADR/RID （陸上規制）: - IMDG （海上規制）: - IATA-DGR （航空規制）: -

14.2 国連輸送名

ADR/RID （陸上規制）: 非危険物

IMDG （海上規制）: Not dangerous goods

IATA-DGR （航空規制）: Not dangerous goods

14.3 輸送危険有害性クラス

ADR/RID （陸上規制）: - IMDG （海上規制）: - IATA-DGR （航空規制）: -

14.4 容器等級

ADR/RID （陸上規制）: - IMDG （海上規制）: - IATA-DGR （航空規制）: -

14.5 環境危険有害性

ADR/RID: 非該当 IMDG 海洋汚染物質(該当・非該当): IATA-DGR （航空規制）: 非該当

非該当

14.6 特別の安全対策

14.7 混触危険物質

脂質, ゴム, 人工/天然樹脂, 多様なプラスチック, 油

詳細情報

国際輸送に関する国連勧告の定義上は、危険物に該当しない。

---

15. 適用法令

海洋汚染防止法

有害液体物質(Y類物質)(施行令別表第1)

化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)

新規指定化学物質(第1種)(平成20年11月21日公布、平成21年10月1日施行、PRTR:平成22年4月1日把握開始、平成23年4月1日届出開始)デシルアルコール(別名デカノール)(政令番号:1-257)

化審法

優先評価化学物質

---

16. その他の情報

略語と頭字語

ADR: 道路による危険物の国際輸送に関する欧州協定

CAS: ケミカルアブストラクトサービス

EC50: 有効濃度 50%

IATA：国際航空運送協会

IMDG: 国際海上危険物

LC50: 致死濃度 50%

LD50: 致死量 50%

RID: 鉄道による危険物の国際運送に関する規則

STEL: 短期暴露限度

TWA: 時間加重平均

参考文献

【1】労働安全衛生法 ウェブサイト https://www.mhlw.go.jp

【2】化学物質審査規制法（化審法）https://www.env.go.jp

【3】化学物質排出把握管理促進法（PRTR法） https://www.chemicoco.env.go.jp

【4】NITE化学物質総合情報提供システム （NITE-CHRIP）https://www.nite.go.jp/

【5】カメオケミカルズ公式サイト http://cameochemicals.noaa.gov/search/simple

【6】ChemIDplus、ウェブサイト http://chem.sis.nlm.nih.gov/chemidplus/chemidlite.jsp

【7】ECHA - 欧州化学物質庁、ウェブサイト https://echa.europa.eu/

【8】eChemPortal - OECD 化学物質情報グローバルポータル、ウェブサイトhttp://www.echemportal.org/echemportal/index?pageID=0&request_locale=en

【9】ERG - 米国運輸省による緊急対応ガイドブック、ウェブサイトhttp://www.phmsa.dot.gov/hazmat/library/erg

【10】有害物質に関するドイツ GESTIS データベース、ウェブサイトhttp://www.dguv.de/ifa/gestis/gestis-stoffdatenbank/index-2.jsp

【11】HSDB - 有害物質データバンク、ウェブサイト https://toxnet.nlm.nih.gov/newtoxnet/hsdb.htm

【12】IARC - 国際がん研究機関、ウェブサイト http://www.iarc.fr/

【13】IPCS - The International Chemical Safety Cards (ICSC)、ウェブサイトhttp://www.ilo.org/dyn/icsc/showcard.home

【14】Sigma-Aldrich、ウェブサイト https://www.sigmaaldrich.com/

免責事項：
本MSDS中の情報は指定された製品にのみ適用され、特に規定がない限り、本製品とその他の物質の混合物には適用されません。本MSDSは、製品使用者の適切な専門的なトレーニングを受けた者にのみ製品安全情報を提供します。本MSDSの使用者は、本SDSの適用性について独自に判断しなければならない。本MSDSの著者は、本MSDSの使用によるいかなる傷害にも責任を負わない。